

[ライブ・サーティ]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

220

2017年
1月-2月



(表紙写真はとり年生まれの職員)

TOP MESSAGE

ごあいさつ 大道道大 (社会医療法人 大道会 理事長)

CLOSE UP

医療機関と患者さん・ご家族が双方向で交流できる場をめざして

脳性まひ講演会を開催

OMICHI ACADEMY

森之宮病院小児神経科活動報告

The Asian Confederation for Physical Therapy 2016(アジア理学療法連盟学会)

第27回 全国介護老人保健施設大会

OMICHI SCRAMBLE

昇進者研修を開催

森之宮病院で院内勉強会「ワールドカフェ」を開催

INFORMATION

入職医師のご紹介

森之宮病院が病院広報・情報公開度『はとはあと』の優秀医療施設に認定



最優秀賞
「Live30」
病院の広報活動において
最も優秀であったと認定され、
日本一を受賞します。
日本病院協会

ごあいさつ

大道会にとって大きな変革の 第1歩を踏み出す「飛躍の年」に



社会医療法人 大道会 理事長
森之宮病院 院長
大道 道大

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は熊本で震災が起こり、たくさんの方々がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。当法人もJRAT OSAKAの派遣チームとして熊本地震災害支援活動に参加し、東北の津波による被害とは異なる対応が必要でしたが、改めて「情報共有」と「連携」の重要性を認識させられました。

一方、医療政策では後期高齢者の人口が急激に増加する「2025年問題」に対応するため、様々な施策が議論され実施されていますが、その変革のピークは1年後の2018年に到来します。この年は、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われ、第7次医療計画、第7期介護保険事業計画も開始され、今後の医療・介護施策において極めて大きな節目となります。また、東京オリンピックが開催される2020年には、基礎的財政収支(プライマリー・バランス)の赤字を無くすことが目標とされていることから、今年は様々な方向性が決まる重要な年と位置付けられます。

法人内では、森之宮病院開設10周年を記念して初めての試みとなる「オープンホスピタル」を昨年12月に開催しました。行政・民間企業等と協働で、医療講演や医療職体験、健康・介護相談、健康チェック等、各科の紹介展示も含めて、様々なイベントを企画しました。当日は多くの地域住民の方にご来場頂き、大盛況のうちに終わりました。

また、2017年は当法人にとっても「ターニ

ングポイント」となります。これまでに「未来創造プロジェクト」と称して、「課題解決スキル強化ワーキング」「人事制度改良ワーキング」「経営戦略策定ワーキング」等を実施し、徹底的に基礎固めをしてきました。特に、マネジメントスキルを身に付け組織強化をめざすために、2010年にスタートした「課題解決ワークショップ」は、これまでに170名の主任・科課長の管理職に実施し、論理的思考方法や課題発見から分析、解決策の立案を身に付けました。その他、昨年施行された法人がめざす姿を実現できる組織、職員の頑張りが評価される新しい仕組みである「新人事制度」では、自己評価と上司から評価フィードバックを行う「目標管理制度」が、今後、管理職以外の一般職員にも段階的に開始される予定です。このように、今年は大道会にとって大きな変革の第1歩を踏み出す「飛躍の年」になっていくと考えております。

これまで、私達は進むべき方向性をあらゆる角度から予測し、それらに柔軟に対応できるよう、職員一丸となって準備を進めて参りました。今後、ますますヘルスケア分野は急速に変化し複雑化する中で、より効果的かつ効率的にサービスを提供することが求められるようになっていきます。地域に根差し、地域の特性を生かした『大道会にしかできない地域包括ケアシステム』を構築していき、私達にしかできない医療・介護・福祉に挑戦していきたいと思っております。

医療機関と患者さん・ご家族が双方向で交流できる場をめざして 脳性まひ講演会を開催



2016年4月より、脳性まひ講演会を開催しています。開催のきっかけは、2015年に森之宮病院・ボバース記念病院へ通院されている脳性まひの方に、私達に期待されるものをお聞きした時、「講演会を通じてもっと自分達の病気を知りたい」という希望が多かったことです。日常の診療の中で十分に伝えられていないことを講演会の形で伝えたいということと、講演会を通じて当事者同士のつながりができてくれればうれしいという思いがありました。参加者には、小さなお子さんとそのご家族、重度障がいの方もいらっしやいます。このため、どの程度の規模でどのような内容なら満足して頂けるか、スタッフ全員で知恵を絞りながら開催しました。

これまで左記のテーマで講演会を行いました

▼『大人になって困ること』

―成長に伴う変化―

▼『脳性まひの治療について』

▼『リハビリテーションについて』

▼『脳性まひの二次障害』

▼『姿勢管理』

各回20組を募集していますが、回を重ねるごとに参加希望の数が増えています。大阪府以外の地域からも応募や参加を頂いており、患者さんやご家族の「知りたい!」「学びたい!」という気持ちの強さを感じます。



柴田医師と医療ソーシャルワーカーの岸課長
参加者から質問を受ける

ました。講演を聴いた感想として、「基本的な事を学ぶことができた」「勉強をする機会があまりないので、とてもありがたい」等、好評を多く頂き、スタッフ一同うれしく思っています。

講演には医師、看護師、リハビリ、事務等、各職種のスタッフが参加し、講演を聴かれている方に何か起こった場合もサポートができる体制をとっています。

す。また、講演時間は1時間として、聴く側の負担を考慮し、参加者の満足に添えるように工夫しています。

参加者に「来てよかった!」と思って頂く、また、医療機関と患者・ご家族が双方向で交流でき、信頼関係を築いていける、この講演会がその機会となればと思います、今後も活動していきます。

(森之宮病院事務部フロントサービス課主任 下里忠光)

今後は医療以外にも様々な分野で脳性まひに関わるテーマに取り組めます

2016年の講演会は、現在、通院されている方を対象に、参加人数を限定して開催しました。今後は、もっと広くアナウンスして、今まで大道会を利用されていなかった方にも知って頂きたいと考えています。

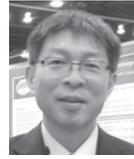
また、内容的にも、医療だけでなく福祉、教育、就労等、脳性まひに関わる様々なテーマに取り組みたいと思います。そのために、講師として法人内部のスタッフだけでなく、外部の専門家を招聘したり、実際に当事者に話して頂く等も検討しています。

(森之宮病院副院長 柴田徹)

活動報告

森之宮病院小児神経科の 研究活動

国内外で開催された学会・研究会の参加及び発表により、貴重な知見を得ることができた



森之宮病院
小児神経科部長
荒井 洋

森之宮病院小児神経科では、国際学会で講演や発表を行う一方で、国内でも小児神経疾患のリハビリテーションに関わる医療関係者に対するセミナーや研究会を開き、知識の伝達・交流を進めています。

国際乳児けいれん研究会

日程：7月1日～3日
場所：東京一ツ橋ホール

7月1日～3日の国際乳児けいれん



講壇に立つ荒井医師

ん研究会では、乳幼児の急性脳症がテーマとして取り上げられ、海外からも多くの著名なてんかんの研究者が参加されました。小児の急性脳症はアジア、特に日本に多く、研究も世界で最も進んでいます。脳症後のリハビリについても、まとまった知見は日本にしかなく、会の最後に私が30分間、平井聡里医師がまとめたデータを基に講演しました。この研究会の内容は英文のテキストとして出版される予定です。

脳性麻痺治療セミナー

日程：7月8日～10日
場所：森之宮病院ウッティホール

7月8日～10日には私達が主催して、森之宮病院ウッティホールで「脳性麻痺治療セミナー」を開き、全国から36人の医師、療法士が参加されました。私達の臨床経験や研究から得た知見を講義するだけでなく、他施設からも講師を招き、そこで行われた新しい治療法の効果を紹介しました。また、入院・通院中の患者さんにご協力頂き、実際の治療方法に関して討論しました。

第4回脳性麻痺神経学の会

日程：9月3日
場所：東京順天堂大学

続いて9月3日には浜松、名古屋、秋田、仙台の施設と森之宮病院が共同で「第4回脳性麻痺神経学の会」を

開きました。

発達期の脳障害による症状は脳卒中等の成人の神経徴候とは異なり、その解釈や治療方針が定まっていません。今回は北井征宏医師が小脳病変を有する早期産児の運動発達について発表し、リハビリの方向性について提案を行いました。

アメリカ脳性麻痺・発達医学会

日程：9月21日～24日
場所：米国フロリダ

9月21日～24日にフロリダで行われたアメリカ脳性麻痺・発達医学会には私と北井医師が参加し、最先端の知見を学びました。特に、脳性麻痺の早期診断について世界的な調査に基づく新しい基準が提唱され、勉強になりました。北井医師は、脳室周囲白質軟化症の学童期における移動機能は病変の広がりや運動能力だけで決まるのではなく、認知能力に



講演を行う荒井医師

よっても影響を受けることをポスター発表しました。これは、昨年森之宮病院にお招きしたBoyd教授のグループが考案された評価方法をもとに膨大な時間をかけて検討した結果で、多くの参加者から質問が寄せられました。学会後は、夏に森之宮病院にお招きしたColumbia大学の先生方と夕食を共にし、交流を深めることができました。



ポスター発表を行う北井医師

発表報告



ボバース記念病院
リハビリテーション部
理学療法科
山田 良

The Asian Confederation
for Physical Therapy 2016
(アジア理学療法連盟学会)

軟性コルセット着用による 重心の動きの研究を発表

日程：10月7日・8日
場所：マレーシア・クアラルンプール

今回研究大会はアジア理学療法連盟主催の国際学会で、日本・マレーシア・台湾・ベトナム・タイ・インドネシア・シンガポール・韓国・オーストラリアの理学療法士・医師・大学教員等が集まり、日頃の研究成果を発表し討論を行っています。

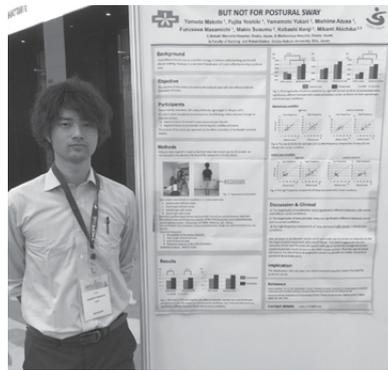
今回私は、重心動揺計と加速度計を用いて、軟性コルセットの着用による体幹・骨盤の動きについての研究をポスターにて発表しました。軟性コルセットの着用により重心の動きの大きさには変化はありませんでしたが、体幹・骨盤の動揺は軽減していることが分かり、腹圧を高めるために軟性コルセット(伊達締め)を着用することでリハビリが行いやすくなる経験を表付ける一つの結果となりました。また、海外のセラピストからも研究結果に賛同を得られ、今後ともさらなる研究活動の活性化を図ることが重要だと認識しました。

各国のセラピストによる研究発表では、日本と同じように十分な研究機材がない地域であっても、任天堂のゲーム「Wii」を使用して研究を行う等、工夫を凝らした発表が多くありました。十分な施設や機材がない環境でも、柔軟な発想で研究を進めている姿勢に感銘を受け、今後の活動のモチベーションが上がっただけでなく、十分な環境で行える研究活動の責任も強く感じました。

今回は海外での学会でしたが、日

本からの参加がとても多く、日本のセラピストが積極的に海外へ発信していることを知り、大変刺激を受けました。

今回の学会参加で得た知識やアイデアを日常の治療の中で生かし、さらなる研鑽を積んでいきたいと考えています。



ポスター発表を行った山田科員

発表報告

第27回 全国介護老人保健施設大会

利用者が満足できる介護を行うため、様々な視点からのアプローチを心がけたい

日程：9月14日～16日
場所：大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル



介護老人保健施設
グリーンライフ
療養サービス部3科
木内 崇裕

今回は、「食事を楽しく水分摂取の負担軽減を目指して」というテーマで、当施設において水分摂取にかかる、利用者の負担軽減について発表しました。

今回のテーマは、介護を行う上で欠かせない課題であり、また、人が満足していく生活を行う上で必須の課題でもあります。介護福祉士の他に、看護師や管理栄養士とも協力し、水分摂取が苦手な利用者、少しでも負担無く水分摂取してもらおうことを考え、取り組みました。

当施設で提供しているコップ一杯のお茶は、一律200ccです。当初は、水分摂取が苦手な方がそのお茶を残した場合、水分が足りていないと考えていました。しかし、検討の結果、食事から摂取している水分を考慮すると、足りていないように見えても実際は個々に必要な水分を摂取できている人もいることが分かりました。この結果を踏まえて、水分摂取が苦手な方には、過剰な促しをせず、利用者の気持ちに沿った形での提供を行えるようになりました。些細な事ではありますが、今回のように視点を变えることで、利用者により良い援助を行っていただける場面が他にも多く存在すると思います。

今回参加した大会では、このような食事に関する演題以外にも、入浴・レクリエーション・外出といった施設生活の質を向上させるための演題

が多く発表されており、とても勉強になりました。また、大会を通して利用者により良い介護を行うためには、多職種と協力し一緒に作り上げていくということがいかに大切であるかを痛感しました。

この大会で得た知識や発表の経験を生かして、今後も利用者が安心してグリーンライフでの生活を過ごして頂けるように、様々な視点からのアプローチを取り入れ、多くの笑顔が生まれるような介護を行っていきたいと考えています。



全国から6000名が参加



参加報告

高齢者の理解と
認知症患者の看護



森之宮病院看護部
2階病棟
神野 健太

高齢者・認知症問題の
「新しい老化モデル」を学んだ

日程：8月9日・10日
場所：ナースिंगアート大阪

大阪府看護協会主催の研修で、認知症患者に適切に対応するため、高齢者特有の病態や認知症患者を正しく理解し、一般病院における認知症患者のケアに必要な知識を学びました。

認知症高齢者は2025年には約700万人になると予想され、政府も新オレンジプランという認知症に関する施策戦略を作成しました。しかし、今もなお早期受診・対応の遅れによる認知症の悪化、介護資源不足等の課題があり、高齢者・認知症問題が一朝一夕では解決しないことが分かります。私達看護職は、高齢者・認知症患者の特徴を理解した上で、安全に自分らしく過ごせるよう尽力しなければなりません。

私達が理解しておくべき高齢者の特徴は多岐にわたりますが、本研修では「新しい老化モデル」を学びました。このモデルでは、多くの高齢者は死の直前まで諸機能は自立可能な

レベルを維持しており、終末期に至ってそれが急速に低下しているとされています。このモデルを活用すれば、高齢者だからこれではできないだろうといった先入観を減らし、彼らの力を見出しやすくなるのではないかと考えています。私は集中治療の現場で看護を行っており、高齢の患者さんも多いです。入院中であっても、高齢者の力を見出し、彼らが自分でできることは自分でして、自立した生活を行えるよう関わる必要があります。

認知症患者に対しても、その特徴を踏まえて看護を提供していかねればなりません。認知症患者は記憶障害や失見当識、BPSD(行動・心理症状)によって、私達とコミュニケーションを取ることもや対応が難しくなることがあります。しかし、その行動の一つ一つに理由や目的があり、認知症患者の行動を私達は漫然と見ているのではなく興味・関心を持って、何故そうするのかをアセスメントすることが重要であるということが分かりました。

私の病棟は急性期であるがゆえに治療を優先させるため、やむを得ず身体拘束をする場合があります。しかし、不必要な拘束は身体的虐待になりうるし、認知症患者にとっては不穏やうつへの誘発・増長、コミュニケーションを取りづらくなる等の弊害もあるため、必要性を常に判断し

続けることや、面会等のタイミングに合わせて1日の中で拘束を外す時間を作ることが必要であると感じました。高齢者や認知症患者との関わりは一朝一夕では終わりません。本研修で学んだこと、感じたことを忘れずに、看護実践を通して彼らの力になれる関わりをしていきたいと思っています。

参加報告



ホバース記念病院
看護部2階病棟
永原 美紀

平成28年度
リフレッシュ研修会

ほめることの重要性を
再認識できた

日程：8月29日
場所：ナースिंगアート大阪

今回、「ほめ達！ほめる達人が人と組織を活性化」の研修に参加しました。ほめるとは、「人」「モノ」「起きる出来事」の価値を発見して伝える事で、見えなかったものが見え、湧かなかったアイデアが湧いてくるという学びました。また、成長し続ける人には、今自分ができているかどうか振り返りができるといふ共通点があり、言葉の3D「でも」「だって」「どうせ」の考えではなく、まず実践する事が重要であると学びました。ほめる達人の口癖として、3S+

「1「すごい」「さすが」「すばらしい」「そうくるか」があり、これらで人を変える事はできないが「人に影響を与えてプラスにさせる事はできる」と知りました。

傾聴とは耳だけでなく目と心で聴くものであり、笑顔、うなずく、繰り返す、要約する、話を遮らない、先読みしない等のコツがあることを学びました。また、相手を自分なりに受け止め、なおかつ相手に確認し承認を得た上で、本来の聴いたという意味になると知りました。ただ単に聴くだけではなく、相手を思いやり、汲み取る事がコミュニケーション障害のある患者さんにも役立つと改めて感じました。また、伝え方を学ぶ他己紹介やパズルを体験したことで、特徴を捉えながら伝える事の難しさや、一方通行のコミュニケーションが双方に多大なストレスを与えるものであることを実感しました。

研修の最後に「因は我にあり」という事を学びました。それは「物事の起こり、始まりは自分が変わらなければ相手は変わらない。全ての起りは自分自身である」という事です。ほめるということは、現場や人との関わりの中で、とても必要とされるものであると実感しました。今回学んだ事を実践に生かし、人と組織の活性化に繋がるようにしていきたいと思っています。

森之宮病院

音楽鑑賞会を開催しました

平成28年9月7日に森之宮病院のこもれび広場にて音楽鑑賞会を行いました。

今回は、チャータービラーズの皆さんに沖縄の音楽を演奏して頂きました。「島唄」「涙そうそう」をはじめ、ビートルズの「プリーズプリーズミー」、コマーシャルで話題になった「海の声」等、懐かしい曲や新しい曲をたくさん

聞くことができました。各病棟から多くの方に参加して頂き、演奏中は一緒に歌を口ずさんだり手拍子をとったりする等、楽しい時間を過ごせたと思います。

今後も様々な活動を行い、多くの方に楽しんで頂けるよう努めたいと思います。
(森之宮病院歯科診療部 後藤 結衣)



沖縄の音楽を演奏して頂きました

法人全体

昇進者研修を開催しました

平成28年8月24日、4月に昇進した新任職5名を対象とした昇進者研修を実施しました。研修を受講した新任職の受講報告を一部ご紹介いたします。



本館管理部
人事課主任
大平 剛士

今回の研修では、社会保障費の抑制が行われる中で、医療では病床機能を効率化し、急性期・回復期病床の再編成に伴う、地域包括ケア病床の拡大が今後見込まれることを学びました。

また、管理職の役割に関して、顧客の視点に立つて経営を考えるマーケット・インの考え方を取り入れて、様々な課題に積極的に取り組む行動が求められていることを学びました。

今後の採用業務に取り組んでいく上で実践していきたいことは、まずは医療介護政策と労働

市場の関係性を理解することです。2025年問題に向けての医療介護政策は今後、医療介護における労働市場に様々な影響を与えると考えられるからです。

次に、今後の経営戦略を見据え計画的な採用活動を行うことです。これまで、なかなか介護・在宅分野の採用活動に注力することができていませんでしたが、今後は地域性の強い採用活動が求められるのではないかと考えています。成長が見込まれる介護・在宅分野の採用活動にも今後チャレンジしていきたいです。

森之宮病院

森之宮病院で院内勉強会「ワールドカフェ」を開催しました

森之宮病院の教育研修図書委員会は、月1回のペースで院内全体勉強会を企画しています。今回は対話をテーマに、「ワールドカフェ」を開催しました。ワールドカフェとは、考え方が異なる人や初対面の人同士でもリラックスして話ができるように、最低限のルールを定めた対話のスタイルで、企業や地域等で盛んに実施されています。

研修スタイルは、5人ずつテーブルに座り、テーマごとに30分程度対話を行い、毎回席替えをします。相手の意見を否定しない、話の途中で割り込まないというルールなので安心して話ができます。テーマは「仕事におけるコミュニケーションとは」と「回りハ病棟におけるコミュニケーションとは」で、法人内のセラピスト、看護師、事務職、在宅事業部と、職種も所属も多様な職員21名が参加しました。参加者からは、「多(他)職種と話をする機会があまりなかったのが楽しかった」「また参加したい」「コミュニケーションの大切さがよく分かった」等の感想が寄せられました。専門知識以外を学ぶ場が少ないため、今後このような内容の研修を取り入れていければと考えています。



参加者 聞き入る雰囲気の中でリラックスした

(森之宮病院教育研修・図書委員/事務部庶務課 奥田陽子)

入職医師のご紹介

森之宮病院の泌尿器科に7月より山田篤医師が、続いて10月より心臓血管センター心臓血管外科に磯田竜太郎医師、同センター循環器内科に名方剛医師が新たに着任しました。今後とも、患者さんに寄り添った医療提供を心がけて参ります。受診をご希望の際は、森之宮病院にお気軽にご相談下さい。



山田 篤 医師
(泌尿器科)



磯田 竜太郎 医師
(心臓血管外科)



名方 剛 医師
(循環器内科)

森之宮病院が病院広報・情報公開度『はとはあと』の優秀医療施設に認定されました

特定非営利活動法人日本HIS研究センターから森之宮病院が病院広報・情報公開度『はとはあと』の優秀医療施設に認定されました。『はとはあと』とは、「NPOや市民の目線から、より適切で健全な医療の利用情報のあり方を評価し、今後の改善に資する活動」のことです。今後は次のステージである広報活動の適切性や戦略性を高められるような取り組みに力を入れていきます。



ご寄付・ご寄贈を頂きました

中井知津子様(交野市)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

編集後記

今回のLive30では、写真を28枚使用しています。情報を伝える手段は、文字だけではなく写真を使うことでより理解度を高めたり、感情を動かしたりすることができます。今後も写真を効果的に使用し、「見やすい」「分かりやすい」レイアウトを心掛けます！(本部管理部人事課 山見心)

Live30 [ライブ・サーティー]
2017年1-2月号
vol.220 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL.06(6962)9621
FAX.06(6963)2233

- 本法人の経営理念
1. 社会から信頼される病院・施設づくり
 2. 安定した経営基盤の確立
 3. 職員の福祉向上と人材育成

- 職員行動モットー
- 親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない/よく説明する/
連携する

社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ポバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

東中浜ケアプランセンター

☎06(6962)3777

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

社会福祉法人山水学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山水学園(保育園)

☎06(6974)7377